



展示の特徴（触りどころ）

■ だれもが楽しめる博物館

現在、ユニバーサル・ミュージアムは単なる障害者対応、弱者支援という枠を超えて、国際的に注目されています。本展は、各地の博物館・美術館の最新動向をふまえ、ユニバーサル・ミュージアムの具体像を広く国内外に発信することを狙いとしており、博物館における「合理的配慮」の実践事例、あるいは障害当事者発の「ソーシャル・インクルージョン」（社会的包摂）の試みとしても注目されます。

■ 触の可能性を探る

本展では、会場内のすべての展示品を実際に触ることができます。「風景にさわる」「歴史にさわる」「音にさわる」などのテーマの下、さまざまな素材と手法を用いて触の可能性を探ります。来館者が触覚（視覚以外の感覚）に集中できるように、セクション1～5では、安全性を確保した上で、あえて会場内を暗くしています。「視覚を使えない不自由」ではなく、「視覚を使わない解放感」を体験していただくのが狙いです。感覚の多様性への気づきは、人間の多様性を尊重する「共活＝ともに活かす」社会の築きにつながるでしょう。

■ さわるとわかる わかるとかわる！

コロナ禍を経験した人類は、「さわらない・さわれない・さわらせない」日常が人間本来のコミュニケーション（触れ合い）を分断・破壊することを知りました。非接触社会は、豊かな触感（やわらかさ、あたたかさ）を持つ文化を生み育てることができません。

文化とは、人間が創り、使い、伝えてきた事物の総体です。「創・使・伝」は人間の手を媒介として、過去から未来へ継承されます。まずは、本展で展示される多様な資料・作品に手を伸ばしてみましょう。物との対話は、者との対話につながり、接触と触発の連鎖が広がっていきます。

本展を訪れるすべての来館者の「手」から、新たな「創・使・伝」の歴史が始まります。各人各様の「手」が、視覚優位・視覚偏重の従来の展示のあり方を問い直し、ユニバーサル（普遍的）な博物館を築く出発点となるでしょう。

資料点数 約 280 点

展示構成

導 入 「試触コーナー —— なぜさわなのか、どうさわなのか」

セクション1 「彫刻を超越する」

セクション2 「風景にさわる」

セクション3 「アートで対話を拓く」

セクション4 「歴史にさわる」

セクション5 「音にさわる」

セクション6 「見てわかること、さわってわかること」



ニューホライズン（高見直宏）

【新型コロナウイルス感染症に関するみんなの主な取り組みのご紹介】

- ※事前のオンライン予約でのご来館を推奨しています。
- ※本館では安心してご来館いただくための取り組みをおこなっています。
- ・スタッフは、マスクを必ず着用します。
- ・館内各所に手指用のアルコール消毒液を設置しています。
- ・館内の換気の強化をおこなっています。



その他の取り組み等はこちら

https://www.minpaku.ac.jp/aboutus/covid_19_torikumi/kanran

関連イベント

※各イベントの申込み方法や詳細につきましては、みんなのホームページをご確認ください。

みんなの映画会

「世界の感触を取り戻せ！——目の見えない者は、目に見えない物を知っている」

会 場	国立民族学博物館 本館 みんなのインテリジェントホール（講堂） ※オンライン（ライブ配信）はございません。
日 時	9月23日（木・祝）13:00～16:20（12:30 開場）
上映作品	「瞽女 GOZE」
演 奏	萱森直子（瞽女唄演奏者）
解 説	斎藤弘美（「瞽女ミュージアム高田」顧問）
司 会	広瀬浩二郎（国立民族学博物館 准教授）
定 員	160 名
参加方法	要事前申込／先着順／参加無料（要展示観覧券）
内 容	「最後の瞽女」と称される小林ハルの生涯を描いた作品をつうじて、盲目の女性旅芸人の実像に迫ります。瞽女唄のライブ演奏も聴けるスペシャル企画です。



映画「瞽女 GOZE」より

みんなの映画会関連企画上映会

「そして瞽女はいなくなった——ドキュメンタリーで辿る盲目の女性旅芸人の実像」

会 場	国立民族学博物館 第4セミナー室（本館2階） ※オンライン（ライブ配信）はございません。
日 時	11月7日（日）11:00～13:00（10:30 開場）
解 説	斎藤弘美（「瞽女ミュージアム高田」顧問）
司 会	広瀬浩二郎（国立民族学博物館 准教授）
定 員	25 名
参加方法	要事前申込／先着順／参加無料（要展示観覧券）
内 容	1970年代に制作された3本のドキュメンタリー映像をみながら、瞽女文化について深く考え、語り合う企画です。近代化の流れの中で、瞽女の数は一貫して減少してきます。しかし、瞽女文化から私たちが学ぶべきものはたくさんあるでしょう。多様で個性的な瞽女が活躍していたことを知っていただく機会になれば幸いです。



雁木のある町中を歩く

みんなくゼミナール

第 513 回「健常者とは誰か——琵琶なし芳ーの話」

会 場 国立民族学博物館 本館
みんなくインテリジェントホール（講堂）
※オンライン(ライブ配信)でもご参加いただけます。

日 時 9 月 18 日(土) 13:30～15:00 (13:00 開場)

講 師 広瀬浩二郎(国立民族学博物館 准教授)

定 員 160 名(会場参加)、300 名(オンライン参加)

参加方法 要事前申込／先着順／参加無料

内 容 ユニバーサル・ミュージアムとは「誰もが楽しめる博物館」を意味します。では、「誰も」とは何を指すのでしょうか。今回は怪談「耳なし芳ー」を素材として、「ユニバーサル」の真意を考えます。



ユニバーサルな歴史体感ツアー
(奈良県明日香村にて、2019 年 10 月)

第 514 回「ユニバーサル・ミュージアムとは何か——暗闇で『野生の勘』を取り戻せ」

会 場 国立民族学博物館 本館
みんなくインテリジェントホール（講堂）
※オンライン(ライブ配信)でもご参加いただけます。

日 時 10 月 16 日(土) 13:30～15:00 (13:00 開場)

講 師 大石徹(芦屋大学 教授)
黒澤浩(南山大学 教授)
篠原聡(東海大学 准教授)
広瀬浩二郎(国立民族学博物館 准教授)

定 員 160 名(会場参加)、300 名(オンライン参加)

参加方法 要事前申込／先着順／参加無料

内 容 特別展「ユニバーサル・ミュージアム」では、触覚の潜在力を引き出すために、会場を暗くしています。視覚情報を遮断することで、私たちは何を得的のでしょうか。各地の実践事例に基づき、「ユニバーサル」の真意を考えます。



高校生対象の彫刻メンテナンス体験会
(東海大学にて、2019 年 8 月撮影)

研究公演

「身体で聴く『土の音』——触れて打つ、揺らして揺げる」

会 場 国立民族学博物館 本館
みんなくインテリジェントホール（講堂）
※オンライン(ライブ配信)でもご参加いただけます。

日 時 11 月 13 日 (土) 13:30～15:15 (13:00 開場)

解 説 渡辺泰幸(造形作家)

出 演 永田砂知子(打楽器奏者)

司 会 広瀬浩二郎(国立民族学博物館 准教授)

定 員 160 名(会場参加)、300 名(オンライン参加)

参加方法 要事前申込／先着順／参加無料(要展示観覧券)

内 容 ライブ演奏・即興演奏の迫力を通じて、全身で音を味わう空間を創出します。陶器の音具を叩いたり、転がしたりすることによって創られる音が空気を振動させる。その波動が会場内から世界全体へ広がっていく。そんな音の感触を楽しむ企画です。手話通訳あり。「音は耳だけで聞くものではない」事実を確かめてみましょう。



2017 岐阜県美術館 パフォーマンス

ワークショップ

「Love Stone Project-UM」

- 会場** 国立民族学博物館 前庭（雨天中止、小雨決行）
- 日時** （ごっこつ編）9月11日（土）
（ざらざら編）10月3日（日）
（つるつる編）11月3日（水・祝）
各日 10:30～15:00（14:50 受付終了）
- 講師** 富長敦也（彫刻家）
広瀬浩二郎（国立民族学博物館 准教授）
- 定員** 新型コロナウイルス感染症対策のため、一度に参加できる人数を制限して実施します。参加ご希望の方が多数お集りの際はお待ちいただく場合がございますので、参加をご希望される方はお時間に余裕をもってお越しください。
- 対象** 全年齢対象（小学2年生以下は保護者同伴）
- 参加方法** 事前申込不要／参加無料
- 内容** みんなで本館前の広場に展示されるハート型の石を磨いて、みんなで作品を完成させます。特別展期間中、作品は本館前の広場に展示されます。



Love Stone Project—Open Sesame!
世沙弥（大阪市）のようす（2014年）

「こころのかたち、きもちのかたまり」

- 会場** 国立民族学博物館 特別展示館地下休憩所
- 日時** 9月19日（日）13:00～16:00
- 講師** 高見直宏（彫刻家）
広瀬浩二郎（国立民族学博物館 准教授）
- 定員** 10名
- 対象** 小学3年生以上
- 参加方法** 要事前申込／先着順／参加無料
（大学生・一般の参加者は要特別展示観覧券）
- 内容** 「心」や「気持ち」はどんな形をしているのかな？粘土のかたまりを彫って「心」や「気持ち」の型をつくり、石膏を流し込んで立体作品をつくりまわす。完成した作品は、本館エントランスホールで展示します（希望者のみ）。



高見直宏氏、過去のワークショップのようす

「『さわる』をデザインする——ポップアップ本の魅せ方」

- 会場** 国立民族学博物館 特別展示館地下休憩所
国立民族学博物館 特別展示場
- 日時** 10月31日（日）①10:30～12:30 ②14:00～16:00
- 講師** 桑田知明（デザイナー）
広瀬浩二郎（国立民族学博物館 准教授）
- 定員** 各回 10名
- 対象** 小学3年生以上
- 参加方法** 要事前申込／先着順／参加無料
（大学生・一般の参加者は要特別展示観覧券）
- 内容** 能動的にさわる行為によって、新たな発見が得られる体験を共有しましょう。特別展示場の「さわる絵本」をさわって観察した後、それらとは異なるポップアップ絵本ならではの魅力、「さわって作る」仕掛けを紹介します。オリジナルのポップアップ作品もつくりまわす。



桑田知明氏、ポップアップ本

「音にさわる——地球の鳴らし方」

会 場 国立民族学博物館 本館
みんぱくインテリジェントホール（講堂）

日 時 11月14日(日) ①10:30～12:30 ②14:00～16:00

講 師 渡辺泰幸(造形作家)
永田砂知子(打楽器奏者)
広瀬浩二郎(国立民族学博物館 准教授)

定 員 各回 10名

対 象 小学3年生以上

参加方法 要事前申込／先着順／参加無料

内 容 研究公演「身体で聴く『土の音』」の関連企画です。「音にさわる」をテーマとし、少人数、近距離でじっくり音具をさわって観察したり、体験したりしましょう。



2019 ワークショップ 触る音

「感性を開いて、見えないものを見つめる」

会 場 国立民族学博物館 特別展示館地下休憩所

日 時 11月20日(土) ①10:30～12:30 ②14:00～16:00

講 師 片山博詞(彫刻家)
広瀬浩二郎(国立民族学博物館 准教授)

定 員 各回 10名

対 象 小学3年生以上

参加方法 要事前申込／先着順／参加無料
(大学生・一般の参加者は要特別展示観覧券)

内 容 視覚以外の感覚、とくに触覚に集中して作品制作に挑戦しましょう。特別展示場の彫刻作品をさわって観察し、触覚を研ぎ澄ませた後、目隠しをして、触覚や嗅覚を駆使し、粘土で作品をつくります。

福岡女子大学での
ワークショップのようす

友の会講演会

【大阪会場】

第517回友の会講演会「さわる名画ができるまで——その多様性と可能性」

日 時 10月2日(土) 13:30～14:40 (13:00開場)

講 師 辰巳明久(京都市立芸術大学 教授)
京都市立芸術大学の学生有志
広瀬浩二郎(国立民族学博物館 准教授)

聴講方法 ① 国立民族学博物館 本館 みんぱくインテリジェントホール（講堂）（定員 160名）
② オンライン(ライブ配信)（定員 100名）

参加方法 要事前申込／先着順／友の会会員：無料、一般：500円(資料代、会場参加のみ)
友の会ホームページ内、第517回友の会講演会受付フォームより予約(8月下旬開設予定)。
<https://www.senri-f.or.jp/517tomo/>

お問い合わせ 国立民族学博物館友の会(千里文化財団)
06-6877-8893

【東京会場】

第 129 回東京講演会「なぜさわるのか、どうさわるのか——触察の新展開をめざして」

日 時 10 月 30 日(土) 13:30～14:40 (13:00 開場)
講 師 山本清龍(東京大学大学院 准教授)
 広瀬浩二郎(国立民族学博物館 准教授)
会 場 調整中 ※オンライン(ライブ配信)はございません。
参加方法 要事前申込／先着順／友の会会員:無料、一般:500 円(資料代)
 友の会ホームページ内、第 129 回友の会講演会受付フォームより予約(9 月上旬開設予定)。
<https://www.senri-f.or.jp/129tokyo/>
お問い合わせ 国立民族学博物館友の会(千里文化財団)
 06-6877-8893

みんぱくウィークエンド・サロン——研究者と話そう

研究者が展示や研究についてお話します。

「展示の舞台裏——始まるまでと、始まってから」

会 場 国立民族学博物館 本館
 みんなくインテリジェントホール (講堂)
日 時 11 月 21 日(日) 14:30～15:00 (14:00 開場)
講 師 園田直子(国立民族学博物館 教授)
定 員 42 名
参加方法 申込不要／先着順／要展示観覧券
内 容 来館者のみなさまに安心して展示をご覧いただくため、そして資料や作品に適切な展示環境をととのえるため、展示が始まるまで、また展示が始まってからも、さまざまな活動や心くばりをしています。保存科学の視点もまじえながら、展示の舞台裏を紹介します。



開梱作業の様子

「非接触社会から触発は生まれない——2025 大阪・関西万博に向けて」

会 場 国立民族学博物館 第 5 セミナー室(本館 2 階)
日 時 11 月 28 日(日) 14:30～15:15 (14:00 開場)
講 師 広瀬浩二郎(国立民族学博物館 准教授)
定 員 42 名
参加方法 申込不要／先着順／要展示観覧券
内 容 「ポストオリパラの文化戦略」をテーマとする特別展は、2025 年の大阪・関西万博へリンクします。「世界を見せる」従来の万博から、「世界観に触れる」新たな万博へ。特別展終了後、「さわる展示」がどのように深化していくのか。「大阪」「障害」をキーワードに、未来社会のデザインについて夢を語ります。



70 年万博の跡地で、あらためて
 「人類の進歩と調和」の意味を考える

※9 月 5 日(日)及び 9 月 12 日(日)開催予定のみんぱくウィークエンド・サロンは中止となりました。

※会期中の毎週金曜にタッチツアー「あの手この手で特別展を楽しむ」(講師:広瀬浩二郎)を開催します。

※以下の日に出展者によるギャラリートークを実施します。

9 月 4 日(土)戸坂明日香、9 月 20 日(月・祝)北川太郎、9 月 25 日(土)真下弥生、9 月 26 日(日)前川紘士、11 月 6 日(土)酒百宏一、11 月 23 日(火・祝)後藤真美

開催概要

展覧会名	特別展「ユニバーサル・ミュージアム——さわる！“触”の大博覧会」
会場	国立民族学博物館 特別展示館
会期	2021 年 9 月 2 日(木) ～11 月 30 日(火) ※期間中一部展示替えをおこないます。
開館時間	10:00～17:00 (入館は 16:30 まで)
休館日	水曜日(ただし、11 月 3 日は開館、翌 4 日は休館)
観覧料	一般 880 円 (600 円) 大学生 450 円 (250 円) 高校生以下無料 ※本館展示もご覧いただけます。 *()内は、20 名以上の団体、大学等(短大・大学・大学院・専修学校の専門課程)の授業でご利用の方、3 ヶ月以内のリピーター、満 65 歳以上の方の割引料金(要証明書等)。 * 障害者手帳をお持ちの方は、付添者 1 名とともに、無料で観覧できます。
主催	国立民族学博物館
協力	公益財団法人千里文化財団、総合地球環境学研究所
後援	朝日新聞社、NHK 大阪放送局、京都新聞社、産経新聞社、日本経済新聞社、毎日新聞社、読売新聞社
賛助	一般社団法人檸檬新報舎、大塚オーミ陶業株式会社、株式会社ゼネラルアサヒ、錦城護謨株式会社、高野山真言宗社会人権局、真言宗西光院
助成	公益財団法人朝日新聞文化財団、社会福祉法人産経新聞厚生文化事業団

実行委員長 広瀬浩二郎(国立民族学博物館 准教授)

自称「座頭市流フィールドワーカー」、または「琵琶を持たない琵琶法師」。1967 年、東京都生まれ。13 歳の時、失明。筑波大学附属盲学校から京都大学に進学。2000 年、同大学院にて文学博士号取得。専門は日本宗教史、触文化論。「ユニバーサル・ミュージアム」(誰もが楽しめる博物館)の実践的研究に取り組み、“触”をテーマとする各種イベントを全国で企画・実施している。最新刊の『それでも僕たちは「濃厚接触」を続ける!』(小さ子社)など、著書多数。



実行委員

園田直子	国立民族学博物館 教授
日高真吾	国立民族学博物館 教授
末森薫	国立民族学博物館 助教

阿部健一	総合地球環境学研究所 教授
大石徹	芦屋大学 教授
黒澤浩	南山大学 教授
篠原聰	東海大学 准教授
山本清龍	東京大学大学院 准教授

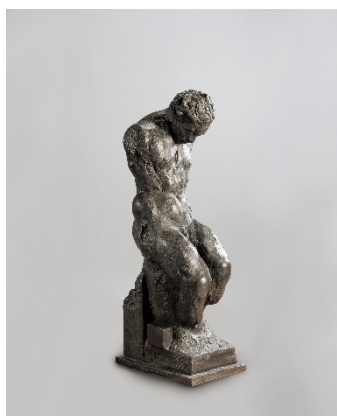
特別展「ユニバーサル・ミュージアム —— さわる！ “触” の大博覧会」 広報用画像リスト



【1】特別展チラシ



【2】富士山立体地図（株式会社三木製作所 所蔵）
試触コーナー 「なぜさわるのか、どうさわるのか」



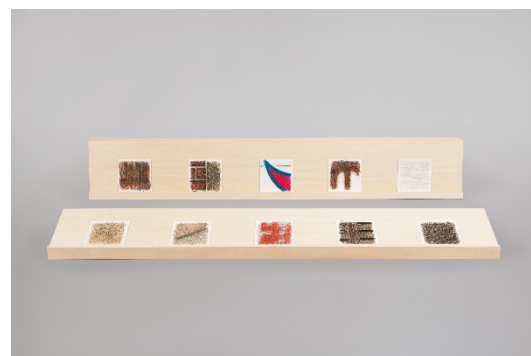
【3】渇くひと（片山博詞）
セクション1「彫刻を超越する」



【4】ニューホライズン（高見直宏）
セクション1「彫刻を超越する」



【5】時空ピラミッド（北川太郎）加賀雅俊撮影
セクション1「彫刻を超越する」



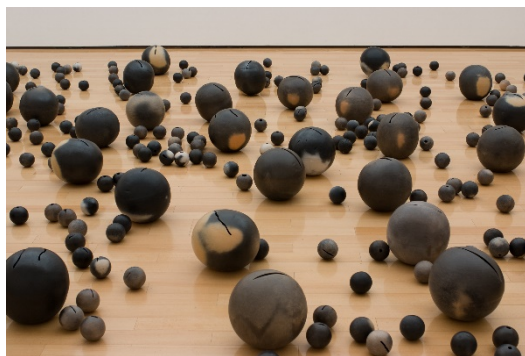
【6】LIFE works @大阪 #2020-2021（酒百宏一）
セクション2「風景にさわる」



【7】attitude I (守屋誠太郎)
セクション3「アートで対話を拓く」



【8】とろける身体ー古墳をひっくり返す (岡本高幸)
セクション4「歴史にさわる」



【9】土の音 (渡辺泰幸)
セクション5「音にさわる」



【10】さわれないものをさわるーポップアップ絵本 (桑田知明)
セクション6「見てわかること、さわってわかること」

これらの広報画像はデータにて提供可能です。

ご入り用の画像があれば、総務課広報・IR係まで次頁申込用紙にてお申し込みください。

資料名につきましては、展示場での表記と異なる場合がございます。

キャプション下段のコーナー名及びセクション名の記載は掲載スペースに合わせ省略可能です。

特別展「ユニバーサル・ミュージアム
—— さわる！“触”の大博覧会」
広報用画像利用申込用紙

【ご希望の画像番号】

--

【貴社・貴機関について】

貴社・貴機関名	媒体名
ご担当者名	所属部署
所在地 〒	
電話番号	E-mail
ご掲載・放映の予定日 年 月 日	

【プレゼント用招待券】（ご希望の場合はどちらかにチェックを入れてください）

☐ 3組6枚 ☐ 5組10枚

※チケット発送先が上記所在地と異なる場合は、下記にご記入ください。

発送先 〒

【申込先】

メール koho@minpaku.ac.jp または FAX 06-6875-0401

【広報に関するお願い】

- 写真使用に関するお願い、注意事項
 - ・クレジットには次のとおり記載してください。
【2】～【10】国立民族学博物館 提供
 - ・写真（画像）のトリミングや文字乗せはご遠慮ください。
 - ・作品写真の使用目的は、本展の紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。
- 本館の基本情報等の確認のため、メールまたはFAXにて、掲載記事、番組内容の原稿等を下記連絡先までお送り願います。
- お手数ですが、掲載紙・誌または録画媒体を2部お送りください。

【お問い合わせ・送付先】

国立民族学博物館 総務課広報・IR係 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
TEL：06-6878-8560（直通） FAX：06-6875-0401 メール：koho@minpaku.ac.jp